飯田市歴史研究所ホームページ：https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.109
The Iida City Institute of Historical Research

2020年12月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

― 史料紹介 ― 伊賀良村大字大瀬木全図 （明治23年調製の旧公図）

図１下伊那郡伊賀良村大字大瀬木全図（伊賀良支所文書から抜粋、GISによる画像加工）

歴史研究所には旧伊賀良村の役場文書が「伊賀良支所文書」として多数保存されています。今回はその中から明治23（1890）年に作成された地図史料を紹介します。

ひとことに「地図」といっても様々ですが、明治時代の町村役場における主要な地図といえば、土地への課税を目的に作成された地籍図（公図）です。明治期の地籍図には、一筆ごとに土地の番号、田畑宅地山林の種別などが書き込まれており、過去の景観を想像するうえで貴重な情報が得られます。

下伊那郡の各町村では、新町村制導入の直後、明治20年代前半に、縮尺1/600の統一様式の地籍図が作成されたようです。伊賀良村の大瀬木全図はその一例で、同村大瀬木区在住の市瀬甚三郎と木下倉三によって製図されています（図2）。大瀬木の耕地は扇状地にそって複雑な形の棚田が発達しており、製図作業は困難を極めたことが想像されますが、地図としての大きな破綻や省略もなく、製図者の優れた技量が読み取れます。

なお、こうした明治20年代以降の正確な地図史料は、近年普及したGIS（地理情報システム）を用い、現在の航空写真と重なるように補正加工し、デジタル地図として分析することが可能です。図1は、全44枚にわたる大瀬木全図のうち、三州街道周辺部の16枚をデジタル撮影し（図3）、着色加工を施した図です（宅地＝橙色、田＝黄色、畑＝緑色、山林＝灰色、溜池＝青色。道路の朱色は原図のまま）。図の下方を横切っているのは現在の国道153号線ですが、この道路が開削されたのは、ちょうど地図の作成年代の頃です。田畑を横切って新しい街道が開削された様子が観察できます（図4）。一方、旧街道はそのやや上方に等高線に沿って走っており、街道村のような町並みも読み取れます。また、田畑山林の分布も興味深いパターンを示しています。今後はこれらの地図を携えて、是非とも現地を歩きながら景観の歴史的変遷について考察してゆきたいと思います。

（研究員　福村任生）

図２

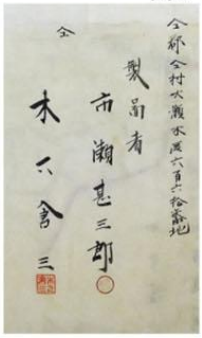


図３

図４

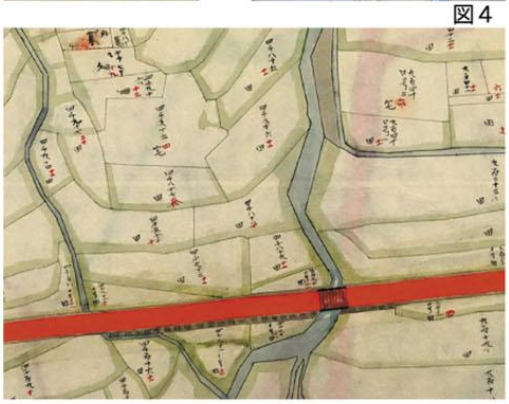


図2 製図者の署名／図3 撮影の様子
図4 現在の国道153号線（図1の★印の箇所の拡大）

市民研究員の紹介

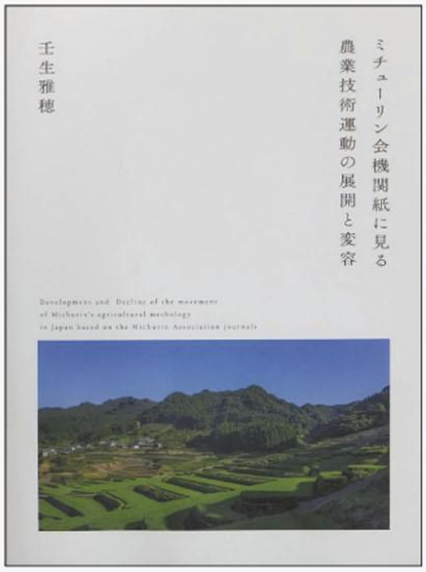
昨年度、市民研究員の制度改正を行い、すでに一定の研究実績をもつ方は、養成課程を経ることなく市民研究員として歴史研究所の活動に参加していただけるようになりました。今年度は、壬生雅穂さんと坂本広徳さんのお二人が、新しく市民研究員に加わりました。

市民研究員　壬生雅穂さん

今年度から飯田市歴史研究所の市民研究員に仲間入りさせていただいた壬生雅穂です。

わたしの研究テーマは、ミチューリン農法に関連した事象です。下伊那で80歳以上の人にミチューリン農法の話をすると懐かしそうな顔をされることがあります。それは昭和20年代後半にミチューリン農法が流行したことがあるからで、下伊那がその発信地でした。

ミチューリン農法とはヤロビ農法とも呼ばれ、イネやムギの種子を冷蔵してから播種すると増収するという農業技術で、ソビエト連邦のルィセンコという科学者が考案しました。日本では下伊那の共産党員・菊池謙一がリーダーとなり、左派的な農民や科学者が参加したのが特徴です。

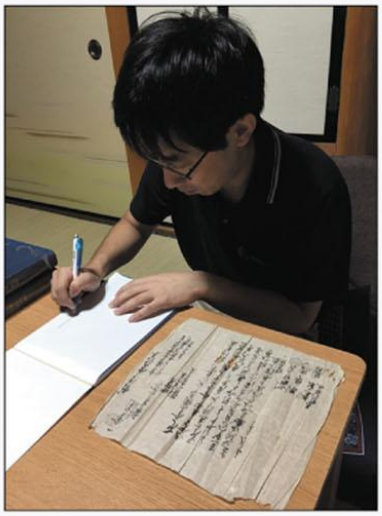


インターネットでミチューリン農法を検索すると、ほとんどの場合「左派的な人々がエセ科学を強引に広めて失敗した技術」という評価が下されています。安定した農業生産を享受している現代から見れば、そのようなまとめ方になるのでしょう。しかし日本中に流行し、その効果について学術界を巻き込んで議論となった農業技術を、単純に間違っていたと切り捨てるだけでいいのでしょうか。簡単すぎる理解はその先の思考を止めてしまいます。ミチューリン農法に惹かれた人々には理由があったはずで、同時に農業技術の主流になれなかった理由もあるはずです。

わたしはそこに興味を持ち、通信制大学の卒業論文と大学院の修士論文のテーマにしました。二つの論文を書くにあたり、飯田市歴史研究所から助成をいただきました。修士論文『ミチューリン会機関紙に見る農業技術運動の展開と変容』は9月に自費出版しました（ネット販売のみ）。

ミチューリン農法の資料は多くありません。もし関連資料をお持ちだったり、当時の記憶があったりする方がいらっしゃればご一報いただければ幸いです。

市民研究員　坂本広徳さん



このたび市民研究員として携わらせていただくことになりました。よろしくお願いします。

私は高校時代、数学と地学と古文が好きで、先のことをあまり気にせずに、国文学を目指していました（偉い人の業績の羅列である高校日本史はあまり好きでなかったです）。

転機は大学に入って古文書の授業を受けたことです。たしか江戸の町の文書で、空き巣に注意というような内容を読みました。この史料を読んで江戸時代が身近に感じられ、日本近世史に興味を持ちました。史料調査にも参加して、「人の畑のなすびをとるな」とか「集会で草鞋を履き間違えて帰ったら過料100文」とか「亭主の留守に若い娘の家に行って猥らなことをするな」とかが書いてある史料を、ニヤニヤしながら読んでいました。

こんな感じなので、古文書を読むのは好きなのですが、膨大な研究史を読むのは気が進まず、リーマン・ショック直前の就職活動で会社員になりました。リーマン・ショックが発生して残業時間が減るなかで、古文書を読みながら仕事をするというスタンスができ、史料調査も継続的に計画することができました。今後の課題は、発見された古文書からわかることを研究史に位置づけて発表していくことです。この活動を通して江戸時代の村社会について検討を深めることができればと思っています。

ところで、これまで古文書を読んで感じたのは、江戸時代も今も、人の考えることはあまり変わらないということです。大きく違うのは環境だけ。だから、社会人としてのいろんな活動のなかで、先人の方々の事例を参考にするとき、その置かれた環境を正しく把握することによって、より深い考察へとつなげることができると思います。このような観点でも研究・報告ができればと思います。

リレーミニエッセイ⑲

地域の博物館活動の現場から

千葉拓真（鳥取市歴史博物館・歴史研究所調査研究員）

現在の職場、鳥取市歴史博物館に赴任して早くも3年目になります。少しずつ職場や鳥取の環境にも慣れつつありますが、学芸員としてはまだまだで、今後も研鑽が必要です。日々展示や教育普及事業など多くの業務をこなしながら、鳥取の歴史や文化に関わる資史料の調査研究を行っています。こうした活動は、地域の歴史や文化を再発見し、市民に知ってもらうとともに、貴重な資史料を後世へと伝えていく上で重要な営為です。こうした点では、飯田市歴史研究所も同様の役割を担っており、歴史研究所での勤務が大いに役立っています。鳥取でも、近年少子高齢化や世代交代などによる人口減少や空き家の増加などが問題化し、また古文書や民具などの資史料が滅失の危機にさらされている現状があります。地域に根差す博物館として、多くの資史料を調査研究し、それらを廃棄や破損、紛失などの危機から救い、展示などによって市民に公開することは重要な責務であり、現在と未来の市民に対する大きな責任を背負っています。しかし今日の博物館を取り巻く状況は厳しく、財政的にも人的にも余裕があるわけではありません。また新型コロナウイルスの世界的流行も、博物館の活動に影を落としています。そうした中、古文書から現代の電化製品に至るまで、実に多種多様で多量の資史料と格闘し、それらを後世へ伝えていくことは決して容易なことではありません。しかし少しでも多くの資史料を調査研究し、時には所蔵者をサポートしながら、市民にその存在と意味を広く知ってもらい、後世に伝えていくために、学芸員は日々活動しています。博物館による展示や普及活動も、地域の歴史や文化について知ってもらい、自分の家や職場、学校など身近な場所にあるかも知れない貴重な資史料の存在に意識を向けてもらう大切な機会です。その展示や教育普及事業の根幹となるのは、地道な資史料の調査研究です。今は日々鳥取で資史料と格闘する毎日を送っていますが、また飯田を訪ね、鳥取の歴史との比較などもしてみたいです。

新刊案内

飯田市歴史研究所 年報18

2020年12月中旬販売開始

飯田市歴史研究所 編

B5判 198頁 定価1,800円

年報18は、歴史研究所の2019年度の主な活動をまとめました。

今回の特集である「飯田・下伊那の蚕糸業と地域社会」は、同テーマで開催した2019年度の地域史研究集会をもとにしています。近現代の飯田・下伊那の経済を支えた蚕糸業の盛衰を、他地域との比較なども含めて分析した論考や、現代に蚕糸業文化を継承する試みを紹介した論考が掲載されています。特集以外にも、中近世移行期の遠山における森林資源の活用に関する研究、近世座光寺村の村落社会の分析、清内路での建築調査の成果をまとめた論考などを掲載しています。ぜひ地域史研究の豊富な成果をお楽しみください。

【特集】飯田・下伊那の蚕糸業と地域社会

日本蚕糸業の地域類型　石井寛治
下伊那の蚕糸業と地域構造　田中雅孝
天龍社の盛衰と蚕業技術院の機能　太田仙一
飼うから始めるお蚕様プロジェクト　大石真紀子
蚕の保存に使われた天然の冷蔵庫・風穴　片桐一樹

【第16回地域史研究集会 山里社会 ―近世から近代へ】

近世初期の城郭・城下町建設と遠山の森林資源　吉田ゆり子
吉田ゆり子報告に対するコメント　多和田雅保

【論文】

近世座光寺村の組と家　羽田真也　他

飯田アカデミア2020第94講座

流行病と江戸時代の社会

講　師 **海原 亮**（うみはら りょう）さん
（住友史料館主任研究員）

1月30日（土）

第1講 13：30～15：00
江戸時代の医療環境

第2講 15：20～16：50
流行性感冒と庶民の医学

1月31日（日）

第3講 10：00～11：30
はしか対策＝種痘のもつ社会的意義

第4講 13：00～14：30
世界史の事件としてのコレラ流行

会　場 **飯田市役所 C棟3階会議室**

受講料 **500円　※高校生以下無料**
※１講義のみでもご参加いただけます。

第94講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZOOM を利用したオンライン（講師が遠隔から講義する講座）での開催とさせていただきます。今回は①会場での受講（定員40名、機材等はこちらで準備します。）②ご自宅等のパソコンから受講 の2通りの受講が可能です。
いずれも、**1月22日（金）**までにお電話でお申込みください。その際に受講方法等についてご案内させていただきます。
（0265-53-4670）※日曜日・月曜日・祝日は休所

講師より

新型コロナウイルスの脅威が、いまだ収束の兆しをみせていません。感染症流行への対策は、あたかも国家＝権力に要請された基本的な役割と思われがちですが、実はそのような考え方は、近代以降の所産です。明治7年（1874）「医制」の制定以前、江戸時代の社会では、現代とは大きく異なる、独自の医療環境が成立していました。端的にいうと、幕府＝公儀は、医療に関する政策を、ほとんど何も設けることがありませんでした。そのような状況下で頻発した、感染症の流行に対して、人びとはどのような対応をとったのでしょうか。

今回の講座では、おもに江戸時代に発生した3つの大きな病、「流行性感冒」「はしか」「コレラ」をとりあげ、被害や流行病対策の実態を物語る史料を眺めていきます。流行病の対策は、江戸時代を通じて次第に進化を遂げていきます。それと同時に、医療をめぐる社会のありようを変え、近代の医学を受容する素地を作りあげていきました。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

大雨により、延期した飯田アカデミア2020第91講座を開催いたします。

通勤電車の社会史
－東京の通勤はなぜ「痛勤」なのか－

講　師 **高嶋修一**（たかしま しゅういち）さん（青山学院大学経済学部教授）

振替日 2月27日（土）・28日（日）

※詳しくは次号の歴研ニュースに掲載します。

歴研ゼミ＆ワークショップ 12月・1月の予定

会 場：歴史研究所 研修室
※満洲移民研究ゼミと近世史ゼミは鼎公民館にて開催します。

地域史ゼミ
担当：太田仙一（研究員）
12月11日／1月8日
（第2金曜日）18:30～20:30

満洲移民研究ゼミ
担当：本島和人（調査研究員）
齊藤俊江（調査研究員）
第109回 12月5日／第110回 1月9日
（第1土曜日）10:00～11:40
※1月9日は13:30～15:30

近現代史ゼミ
担当：田中雅孝（特任研究員）
12月12日／1月9日・23日
（第2・第4土曜日）10:00～11:40

近世史ゼミ
担当：羽田真也（研究員）
12月9日・23日／1月13日・27日
（第2・第4水曜日）18:30～20:30

建築史ゼミ
担当：福村任生（研究員）
12月18日／1月15日
（第3金曜日）19:00～21:00

思想史ワークショップ
市民の皆さんが自主的に学び合う場
12月2日・16日／1月6日・20日
（第1・第3水曜日）19:00～21:00

定例研究会
一教師の興亜教育への傾斜の軌跡
―林重春日記から―

開催日：**1月23日（土）**
時　間：**14：00～16：00**
会　場：**鼎公民館**
報告者：**原 英章**（特任研究員）

※聴講ご希望の方は歴史研究所までお電話ください　定員30名

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。 TEL：0265 - 53 - 4670

各種講座、アカデミア、ゼミについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱・咳などの症状のある方やマスクを着用されない方の受講はご遠慮ください。また、今後の感染状況により、中止または延期をする場合がありますのであらかじめご了承ください。

開所時間：午前9時～午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日